

# 教科化に向けた道徳教育の充実



学習指導要領の一部改正により、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が実施されます。

児童生徒の道徳性を育むために、道徳的価値に迫る読み物の活用や、道徳的価値に関する問題解決的な学習や体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れることによって、児童生徒が答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題ととらえ、自分とは異なる意見と向き合い、道徳的価値について多面的・多角的に考える授業への質的転換が求められます。

県教育委員会では、平成27年度から3市を研究協力地域として指定し、域内の研究校に「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえた実践を積んでいただいています。

本パンフレットは、各研究協力地域における実践の一部を紹介したものです。教科化に向けた道徳教育の一層の充実に向け、各学校の研修などで活用してください。

- 1 全教職員で進める道徳教育の全体計画、別様、年間指導計画
- 2 道徳的価値について考え、話し合う活動を充実する授業づくり
- 3 自分自身の生活（道徳的体験）と重ね合わせて道徳的価値について考える学習
- 4 一つの教材を複数時間で行う指導
- 5 役割演技などの表現活動を取り入れた指導
- 6 「特別の教科 道徳」の評価とは

【監修】

兵庫教育大学大学院 准教授 淀澤勝治

【研究協力地域及び研究校】

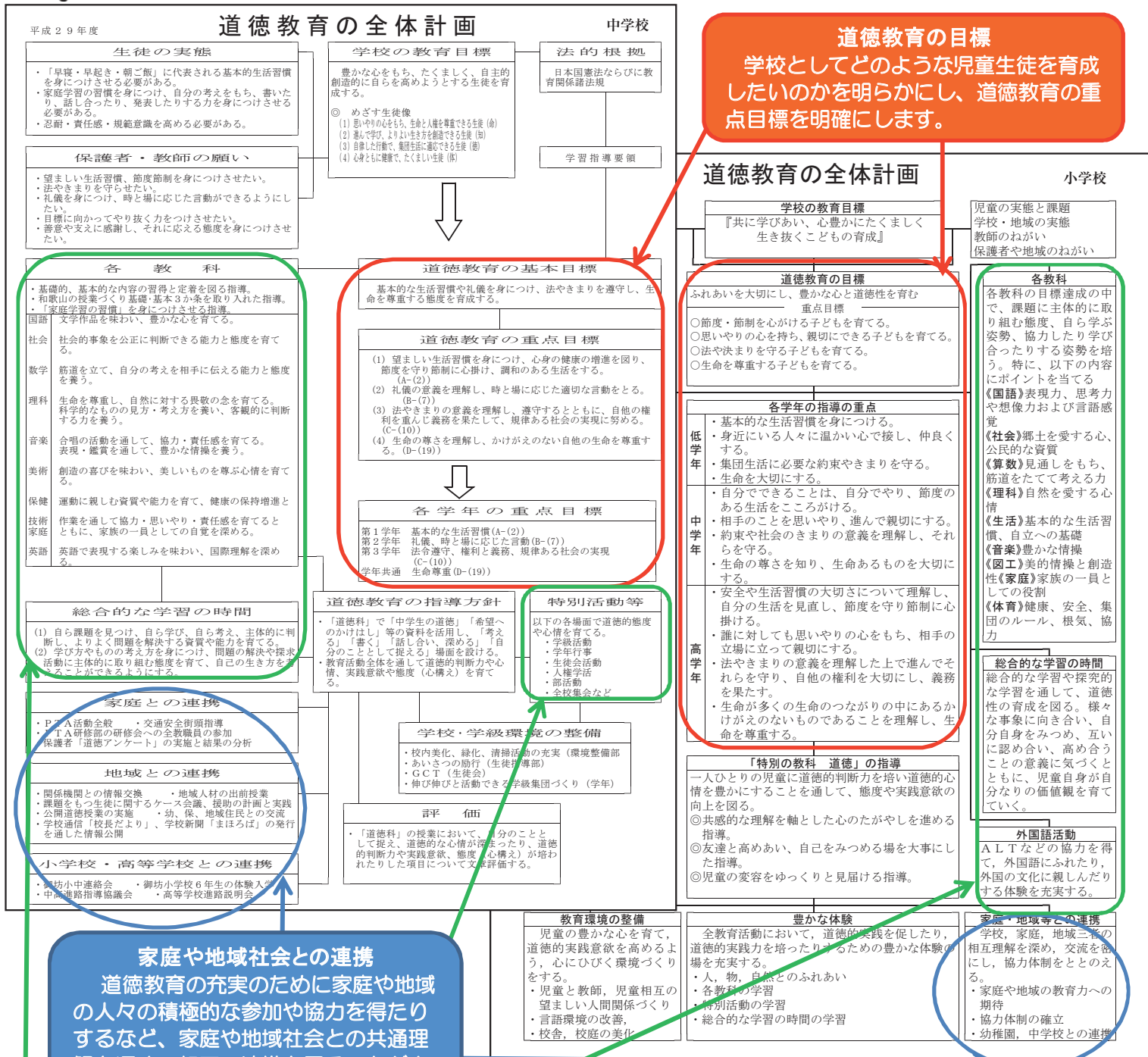
橋本市教育委員会、橋本市立三石小学校、橋本市立柱本小学校、橋本市立紀見北中学校  
御坊市教育委員会、御坊市立御坊小学校、御坊市立御坊中学校  
田辺市教育委員会、田辺市立上芳養小学校、田辺市立上芳養中学校

# 全教職員で進める道徳教育の全体計画、別葉、年間指導計画



## 道徳教育 全体計画

道徳教育の全体計画は、学校長の方針の下、全教職員が共通理解、共通実践するための指針です。各学校においては、自校の実情、児童生徒の実態等に即した独自の全体計画を作成することが重要です。



**道徳教育の目標**  
学校としてどのような児童生徒を育成したいのかを明らかにし、道徳教育の重点目標を明確にします。

**各教科**

- 基礎的、基本的な内容の習得と定着を図る指導。
- 和歌山の授業づくり基礎・基本3か条を取り入れた指導。
- 「家庭学習の習慣」を身につけさせる指導。

**国語** 文学作品を味わい、豊かな心を育てる。

**社会** 社会的事象を公正に判断できる能力と態度を育てる。

**数学** 筋道を立て、自分の考えを相手に伝える能力と態度を養う。

**理科** 生命を尊重し、自然に対する畏敬の念を育てる。科学的なものの方見方・考え方を養い、客観的に判断する力を養う。

**音楽** 合唱の活動を通して、協力・責任感を育てる。表現・鑑賞を通して、豊かな情操を養う。

**美術** 創造の喜びを味わい、美しいものを尊ぶ心情を育てる。

**保健** 運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進と

**技術家庭** 作業を通して協力・思いやり・責任感を育てるとともに、家族の一員としての自覚を深める。

**英語** 英語で表現する楽しさを味わい、国際理解を深める。

**総合的な学習の時間**

- 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようになる。

**家庭との連携**

- P・A活動全般
- 交通安全街頭指導
- PTA研修部の研修会への全教職員の参加
- 保護者「道徳アンケート」の実施と結果の分析

**地域との連携**

- 関係機関との情報交換
- 地域人材の出前授業
- 課題をもつ生徒に関するケース会議、援助の計画と実践
- 公開道徳授業の実施
- 幼、保、地域住民との交流
- 学校通信「校長だより」、学校新聞「まほろば」の発行を通して情報公開

**小学校・高等学校との連携**

- 近坊小中連絡会
- 御坊小学校6年生の体験入学
- 中道連絡協議会
- 高等学校道徳説明会

**家庭や地域社会との連携**  
道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ることが大切です。

各教科、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動における指導の方針

道徳教育の重点目標や各学年の重点項目と学校の教育活動が、どのように関連し展開されるのかを示します。

全体計画の別葉を作成

# 別葉 (道徳教育に関わる内容・時期を示した例)

各教科等の特質に応じた道徳教育の充実が求められています。学校の重点目標に関わる内容項目を意識し、教育活動全体を通じて意図的、計画的に道徳教育が展開されるよう工夫が必要です。

道徳教育全体計画別葉 中学校 第1学年

内容	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	総合的な学習の時間
A-1 風の五線譜 (4月)										アキラの選択 (6月) 町内会デビュー (11月)	オリエンタル活動紹介全校集会
A-2							体づくり運動 (4月)			父の自覚まし時計 (4月) 出船の位置に (11月)	薬物乱用防止教室 (12月) きつずサポート (6月)

道徳教育全体計画別葉 小学校 第6学年

内容	国語 (光村図書)	社会 (日本文芸出版)	算数 (啓林館)	理科 (啓林館)	音楽 (教育芸術社)	図画工作 (日本文芸出版)	家庭 (東京書籍)	体育	保健 (学研)
A-4 さんちき (5月)	(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 ・カレライス 海の命 卒業するみなさんへ	2 明治の新しい国づくり	10						病気の予防
A-5	(2) 正直 誠実 ・カレライス 笑うから楽しい 狂言 稲山伏	4 5 11			詩と音楽を味わおう	12			
B-6	(3) 節度、節制 ・時計の時間と心の時間	5			みんなで使う理科室 ・自然とともに生きる	9 3			時間の使い方を工夫しよう ・毎日の朝食をふり返らそう ・もったくがやくこれからの私たち
B-7 話し方はどうよ (4月)	(4) 個性の伸長 ・この心 私にはこう 今、私は、ほくは	11 2			広げよう科学の世界 ・水溶液の性質 ・月と太陽 ・大地のつくりと変化 ・このはたらき	7			形や色を楽しもう ・動きをとらえて形をとらえて思いをたしたい
B-8 少年の日の思い出 (12月)	(5) 希望と勇気、努力と強い意志 ・忘れられない言葉	1			広げて る世界	4 1			水泳 ハードル走
B-9 詩の心一発見のび (4月) 根拠を明確にし書こう (11月)	(6) 真理の探究 ・時計の時間と心の時間 ・自然にふりまら	5 1	4~12	各単元	通年	9 10 11			時間の使い方を工夫しよう ・水の生活を工夫しよう ・楽しく食事するために工夫しよう
C-10	(7) 親切、思いやり ・カレライス 伝えにくいことを伝える 生き物はつながりの中に	4 5 2			・ヒトや動物の体 ・心をこめて表現しよう	5 3			伝わるつながる

学校の重点目標に関わる内容項目

## 年間指導計画

各学年段階の内容項目については、相当する各学年においてすべて取り上げます。その際、児童生徒の発達の段階や学校の実態に応じ、重点的な指導や内容項目の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫が大切です。

第4学年 年間指導計画

平成29年度 小学校

第2学年 年間指導計画

平成29年度 中学校

学年の基本方針	・自分のできることは、自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 ・相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ・約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る。 ・生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
ねらい	自分のきめた「わたしのきまり」を守れず、体調をこわし反省するよし子の姿を通して、時間を大切に正しい生活しようとする道徳的心情を育てる。
展開	1 毎日の生活の中で自分で守ろうとして決めたまきまりを発表する。 2 「目ざまし時計」を読んで話し合う。 ○よし子は、どうして「わたしのきまり」をつくる気持ちになったのでしょうか。 ◎保健室のベッドで、よし子は、どんなことを考えていたでしょう。 3 わたしたちの道徳「社会で活やくする人に学ぼう」(P12~13)を読み、節度守って生活する良さについて考える。 ※身近な人に、節度ある生活の工夫を聞いてくことを伝える。
教科・領域との関連	特別活動「目標を立てよう」
回	2 月 4 週 2
主題名	心のかよい合い
資料名	「ありがとう」の言葉 出典 『ゆたかな心で』東京書籍
ねらい	挨拶の言葉の意味や礼儀で通い合う心の大切さを知ったひろしの姿を通して、誰に対しても真心をもって接しようとする道徳的実践意欲と態度を養う。
展開	1 挨拶の言葉にはどのようなものがあるか発表する。
教科・領域との関連	特別活動「音楽発表会にむけて」

学年重点目標	①礼儀を重んじ、時と場に応じた適切な行動をとる。(B-7) ②生命の尊さを理解し、尊重する。(D-19)	
時期	内容項目 主題名 ねらい	
4/	D-19 生命の尊さ	よりよい自己の追求 偶然がもたらす出会いの神秘に思いをはせ、よりよい生き方を目指すとうとする道徳的実践意欲を培う。
	不思議(あかつき)	今、当たり前にあることが、本当はたくさんの偶然が重なってできていることを理解させ、よりよい生き方を目指すとうする意欲をもたせることができる。
展開	○筆者は「トクベツに見えた」ことで、どのような気持ちで書いてきたのでしょうか。 ◎「トクベツ」に見えるあなたの不思議は何ですか。	関連 その他 国語(枕草子) 理科(生命を維持するはたらき・動物のなままと生物の進化) 特活(性学習)
	時期	内容項目 主題名 ねらい
4/	B-8 友情、信頼	育み合う友情 心を許しあえる友を持つことのすばらしさを感じ、互いに励まし合う関係を築こうとする道徳的意欲を育成する。
	律子と敏子(あかつき)	明るい性格の律子と自分うまく表現できない敏子。敏子は、律子からの励ましの手紙を受け取りながらも、そっけない態度をとる。やがて律子が転校することになったことで敏子の友情への身勝手さに気付く姿を通して、真の友情について気付かせることができる。
展開	○敏子が、律子からの言葉が気に入らなかったのはなぜだろう。 ○「お礼」を打ち明けられた敏子は、どうして手紙をくれたのだろうか。	関連
	5/	小さなこと(あかつき)

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編には、年間指導計画の内容として以下のことが示されています。  
(1) 各学年の基本方針  
(2) 各学年の年間にわたる指導の概要  
①指導の時期 ②主題名 ③ねらい ④教材 ⑤主題構成の理由  
⑥学習指導過程と指導の方法 ⑦他の教育活動等における道徳教育との関連 ⑧その他  
※「特別の教科 道徳」の指導の時期、主題名、ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画として機能しにくいので、学習指導過程等を含む各時間の指導の概要がわかるものを加えることが求められています。





実施学年  
1 小学校  
1 年生

主題名 **小さな親切** 内容項目：B-(6)親切、思いやり

資料名 **ぼくにできること** (「1ねんせいのどうとく」文溪堂)

### 1 ねらい

親切にしたおばあさんからうれしそうにお礼を言われた時の主人公の気持ちを通して、身近にいる人の困っている様子に気づき、温かい心で接し親切にしようとする心情を育てる。

### 2 資料について

主人公は、お母さんが困っている様子のおばあさんに声をかけ、手助けする場面を見かける。再度、おばあさんの困っている状況に出会い、今度は主人公が手助けをする。おばあさんから礼を言われ、主人公も温かい気持ちになったという話である。主人公の気持ちを考えることを通して、身近にいる人に温かい心で接し親切にすることの大切さについて考えを深め、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ、親切な行為の意義を考えさせることができる資料である。

### 3 展開

※「◎」は中心発問「・」は児童の発言、反応等

	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 題名と関連して考える。	○自分にできることって何だろう。	・資料の内容に興味をもたせ
展開	2 資料(紙芝居)を聞いて内容を理解する。	○おばあさんが言っていた「ごしんせつに」は、どういうことをいっているのかな。 ・お母さんが、おしょうゆを取ってあげたこと。 ・人にやさしくすること。 ・困っている人を助けること。	
	3 おばあさんのうれしさを感じて、温かい気持ちになったときのぼくの気持ちを考える。	◎「ぼくは、あたたかいきもちになりました」で、「ぼく」はどんなことを感じていましたか。 ・おばあさんがうれしそうでうれい。 ・お手伝いでお礼を言われてうれい。 ・お母さんみたいなお手伝いができた。	おばあさんのうれしそうな様子を見て、「ぼく」がどう感じたのかを考えさせる。
終末	4 本時の振り返りをする。	○どうして手伝おうと思ったの?  ○親切にすると何かいいことあるのかな。 ・ほめてもらえうれくなる。 ・自分がすっきりする。	・おばあさんの立場に立って考えた「ぼく」の行為であったことに気づかせる。 ・親切にされた方だけでなく、した方も温かい気持ちになることに気づかせる。
			○題名や親切な行為をすることについて考えたことを、ワークシートに書かせる。

#### 資料提示

挿絵を紙芝居にして読み聞かせることで、内容に興味をもたせたり、「ぼく」の立場に立って考えさせたりすることに効果的でした。

#### 問い返し

「やさしくするってどういうこと?」「『お母さんみたいなお手伝い』ってどんなこと?」と児童の発言に問い返すことによって、次の発言を引き出すことができました。

#### 切り返し

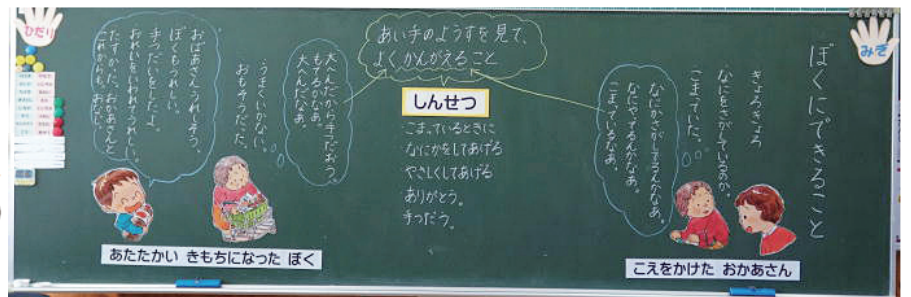
「自分がすっきりするってどういうこと?」と切り返し発問をすることによって、ねらいとする道徳的価値について深く考えることにつながりました。

#### 言語活動

児童に自分の考えをもたせた上で、考えを交流させるために、中心発問について書く時間を確保しました。

#### 板書

教材の2つの場面を左右に分け、児童の発言を簡潔に示すとともに、中心部分を浮き立たせました。色チョークや矢印を用いて提示することで、児童の思考の手助けとし、発言へとつながるようにしました。







実施学年  
中学校  
2年生

主題名 **広い心で理解し合う** 内容項目：B-(9)相互理解、寛容  
資料名 **「一番乗り」たけいち** (「中学生の道徳2 自分を考える」あかつき)

**1 ねらい**

他者がもつ自分にはない良さを認め、広い心で謙虚に学ぼうとする心情を育てる。

**2 資料について**

主人公のぼくと鹿児島から移ってきた転校生「原田たけいち」。ぼくは早起きが苦手、たけいちには毎朝早起き。彼が早起きする理由は、家族のために新聞配達をするため。その事実を知った僕は、彼の献身的で家族思いな態度や行動に心を打たれる。この二人のやりとりを通して、他者のもつ自分にはない良さを認め、謙虚に学ぼうとする心情を育むことができる資料である。

**時間配分**  
中心発問について考える時間、話し合う時間を確保するために、あらずじや主人公については、テンポよく確認しました。

**3 展開**

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言・反応等 △は切り返し発問 ▽は補助発問

	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 ヒーローについてどんなイメージをもっているか考える。	◎あなたはヒーローと聞くとどんなことをイメージしますか。 ・強い、優しい、カッコいい	
	2 教師の範読を聞く。 3 登場人物を確認する。	◎登場人物はだれですか。 ・僕、たけいち ◎なぜあだ名が「一番乗り」たけいちなのですか。 ・登校がとても早いから。 ◎どうしてたけいちは登校が早いのですか。 ・新聞配達するため ・家族のため	
中心発問	4 さっそうと走り去るたけいちを見ていた僕の思いについて考える。	◎さっそうと走り去るたけいちを僕はどんな思いで見ているだろうか。 ・大変なのにえらいなあ。 ・僕も頑張らないといけない。 ・家族思いなんやなあ。 ・真似してみたいなあ。	△何が大変なのですか。 △何を頑張らないといけないのですか。
	5 僕の心に強く響いたものを考える。	◎たけいちの何が僕の心に強く響いたのか？ ・しんどいことをしんどいと思わせない雰囲気 ・明るさ ・自分で生きているところ	▽彼はなぜ、唯一のヒーローなのですか。
終末	6 本時の振り返りをする。		・振り返りシートに自己評価を記入させる。

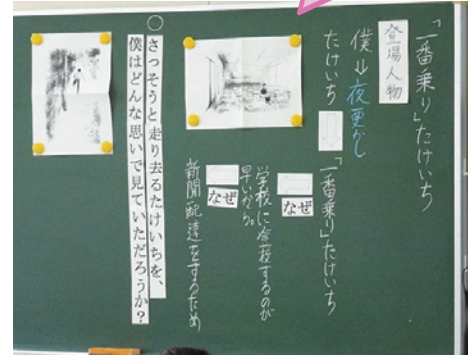
**中心発問**  
ねらいとする道徳的価値について、生徒の多様な考えを引き出し、より深く考えさせるために、発問を精選しました。  
中心発問は、主人公の心の変容が現れる場面に焦点をあてました。

**言語活動**  
話し合いでは、生徒が互いの考えを深められるよう、自分の考えを伝えるだけでなく、友達のと比較して聞くようにさせました。



**板書**  
挿絵やイラストなどを効果的に板書に取り入れました。

話し合いは、児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動です。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に行われるように工夫することが大切です。話し合いを充実させるためには、教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気を日常の学級経営の中でつくることも大切です。  
児童生徒が、教材と対話し、他者と対話し、自分自身と対話する過程において、新しい価値が創出されていきます。





実施学年  
小学校  
6年生

主題名 自律的な生活 内容項目：A-(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任

資料名 修学旅行の夜 (「明日をめざして」東京書籍)

### 1 ねらい

自由な考えや行動には、自律的に判断することや自己責任が伴うこと、自分勝手とは異なるということをおぼえ、自ら主体的に判断し行動しようとする意欲を育てる。

### 2 資料について

本資料は、修学旅行の夜、消灯後も大騒ぎしてしまうという現実によくある問題を取り上げ、自由と規律のかかわりについて考えさせることができるものである。主人公の班は、「自由にしたい」としながらも「できるだけ静かに寝よう」と約束した。しかし消灯後、次第に楽しい気分になり、まくら合戦になってしまう。そこに至るまでの主人公の心の動きから、先生の言葉を聞いた主人公や班の人たちの気持ちへとつなげ、ねらいとする道徳的価値に迫りたい。

#### 導入

本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入の工夫をしました。

### 3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

	学習活動	主な発問と児童の反応
導入	1 「自由」について今まで考えたことを話し合う。	○今までに、もっと自由がほしいと思ったことがありますか？それはどんなことですか？ ・もっと遊びたいのに勉強するように言われた。
展開	2 「修学旅行の夜」を読んで話し合う。 ① 主人公の気持ちの変化を押さえる。 ② 主人公が先生の言葉から考えたことについて考える。	○班長の「わたし」が注意するのをやめておしゃべりの仲間に入っていったのはどんな気持ちからでしょう。 ・修学旅行だから楽しもう。  ◎「わたしはなかなかねむれず…」とありましたが、「わたし」はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・班長の私だけが悪いんじゃないのに。 ・楽しさのあまり迷惑をかけてしまった。 ・自由だと思っていたけれど、自分勝手な行動だった。 ・私たちはとなりの部屋の友達の自由をうばっていたことになるのかな。 ・本当の自由じゃなかったんだな。
終末	3 本時を振り返り、本当の自由について考えをまとめる。	○本当の自由とはどのようなことだと思いますか？ ・本時の学習から考えたことを書かせる。 ・数名の児童に発表させ自由の中に責任をもった行動をとろうという意欲を高める。

#### 中心発問

最もねらいが達成できると考え、「なかなか眠れない主人公がどんなことを考えていたのでしょうか。」を中心発問としました。

修学旅行の夜を経験している児童にとって、自由と自分勝手の違いや自由に伴う責任の大きさについて、自分との関わりで考えることができました。

#### 発問

「約束・決まりだから」という児童には、補助発問等を行い、多面的・多角的に考えられるようにしました。

#### 終末

本時の学習から考えた「本当の自由」について書かせ、決意表明や価値の押し付けにならないように注意しました。

導入は、主題への興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。具体的には、本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる導入などがあります。

展開は、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階です。児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進め、教材に描かれている道徳的価値に対する一人一人の考え方や感じ方を生かし、物事を多面的・多角的に考えたり、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりするなどの学習が深まるように留意することが大切です。

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

本教材については、修学旅行後に取り上げることによって、価値の確認及び自己反省を促すことができます。

# 4 一つの教材を複数時間で行う指導



実施学年  
中学校  
2年生

主題名 **生きる喜び** 内容項目：D-(22)よりよく生きる喜び

資料名 **二人の弟子** (「私たちの道徳」文部科学省)

## 1 ねらい

再会した旧友道信を受け入れることができず、さらに上人様の考えに納得できずに悩む智行の姿を通して、自分を見つめ、弱さや醜さを克服し、人間として強く気高く生きることにより喜びを見いだそうとする道徳的態度を育てる。

## 2 資料について

資料には二人の弟子それぞれの生き方が描かれている。道信は、人間としての弱さの現れである「気まぐれ・無計画・怠け心」などの自分の好き勝手に生きてきた後、失望の中で見つけた「フキノトウ」のあり様から、もう一度頑張ってみてみたいと再出発する。自己の困難や失敗を乗り越え、人間として強く生きようとする人生への前向きな姿である。そして、辛抱強く頑張ってきた智行は、挫折した旧友道信のことを認めることができず思い悩む。また、道信を許した寛容であり崇高な上人様の道徳心を感じるとともに、「白百合」のあり様を通して、智行は人間として常に自分を見つめ、向上しながら充実した人生を目指し、生きることにより喜びを見いだそうとする。また、上人様の言葉から、二人の弟子がよりよく生きようとする姿も想像できる。生徒にとって「生きる喜び」について深く考えることができる資料である。

## 3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

	学習活動	主な発問と生徒の反応	
導入	1 前時の主人公「道信」について振り返る。 <フキノトウ写真掲示>	○道信は、どのような生き方をした人でしたか。 ・好き勝手な生活 ・失望する ・もう一度やり直す決心をした	・
	2 戻ってきた道信に対しての智行の心情を考える。	○智行は、道信が寺に戻ってきたとき彼をどのように思っていたのだろう。 ・途中で修行を投げ出すほどの弱い人だ。 ・何があったか知らないが、なぜ今頃この寺に戻ってきたのだろう。 ・よほどのことがあったにちがいない。	・智行自身の中の人間の弱さや醜さについてしっかり考えさせるとともに、他の生徒の考えにも気づかせる。
	3 上人様が道信を許したことについて考える。	○上人様が道信を許したことを智行はどのように思ったのだろう。 ・一度修行を投げ出した弟子を許すはずがない。 ・道信を許すなら、厳しい修行をしてきた私はたまったものじゃない。	・上人様が許すはずないと、智行自身の人間としての未熟さを理解させるとともに、人間としてのうがった見方をしていることに気づかせる。
	4 上人様の言葉に納得できなかった智行の道徳的变化を考える。 <白百合写真掲示> [グループ活動] <ワークシート1>	◎輝く白百合をいつまでも見ながら、智行はどのようなことを考えていたのだろう。 ・道信を受け入れられない自分は何て醜いのだろう。 ・修行以上の苦労を重ねてきた友を見下している自分は、まだまだ人として未熟である。 ・まだまだ上人様の足元にも及ばない自分が情けない。	・人として崇高な生き方・考え方ができる上人様から智行が学んだことを深く考えさせるとともに、白百合のあり様から学んだ智行のよりよく生きる姿勢を理解させる。 [グループ活動] ・生徒同士による意見交流を大切にす
終末	5 上人様の言葉の意味を考える。 <ワークシート2>	○「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という上人様の言葉にどのような思いが込められているのだろうか。	・本時と前時の授業を振り返りながら自分の考えを書かせる。 ・机間を周り記述を確認し、数名の生徒の感想を簡潔に紹介する。

### 導入

前時の学習内容を振り返り、道信の生き方を確認しました。

### 2単位時間

本内容項目には多くの道徳的要素が含まれています。

教材に描かれた二人の生き方・考え方について深く考えさせるために、1単位時間に一人物を取り上げ、各時間のねらいを達成しつつ、2単位時間のつながりを十分考慮した学習過程としました。

### 写真掲示

強さや気高さを暗示するフキノトウと白百合を掲示し、二人の弟子が自分の弱さや醜さに向き合いながら、人間として誇りある生き方をしようとする思いに気付かせるようにしました。

### 中心発問

生徒がねらいとする道徳的価値について、考えることができる発問を工夫しました。

### 意見交流

多様な感じ方や考え方によって学び合うことができました。

一つの主題を1単位時間で取り扱うことが一般的ですが、内容によっては複数の時間の関連を図った指導の工夫などを計画的に位置付けて行うことも考えられます。一つの主題を2単位時間にわたって指導し、道徳的価値の理解に基づいて自己を見つめる学習を充実させる方法、重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進める方法などが考えられます。

「特別の教科 道徳」の内容は、学年段階ごとに児童生徒の発達段階等を踏まえて示されています。内容項目が低学年、中学年、高学年、中学校において、それぞれどのように位置付けられているのかを捉えることが、当該学年の効果的な指導につながります。D「よりよく生きる喜び」は、小学校第5学年及び第6学年に新設された内容項目です。小学校からのつながりとともに、指導者の道徳的価値への深い理解が求められます。



# 5

## 役割演技などの表現活動を取り入れた指導



実施学年  
小学校  
**2**年生

主題名 **みんなのものを大切に** 内容項目：C-(10)規則の尊重

資料名 **黄色いベンチ** (「わたしたちの道徳」文部科学省)

### 1 ねらい

学校や社会にあるきまりや約束を守ることの大切さに気づき、みんなが使うものを大切にしようとする態度を育てる。

### 2 資料について

本資料は公園で遊びに夢中になった二人の児童がベンチを汚してしまい、そこに座った女の子におばあさんが話しかける言葉から二人は「はっ」として顔を見合わせるという話である。女の子とおばあさんの様子を見たとき二人がどのようなことを思ったのか、役割演技をさせること通して、みんなが使う物の使い方についてしっかり考えさせたい。

### 3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 公共物や公共施設について話し合う。	◎ みんなで使うものや場所には、どんなものがありますか。 ・ ボール、ほうき、机、図書、教室、公園	・ 具体的にイメージをもたせ、関心を高める。
		◎ ベンチに上がって紙飛行機を飛ばしているとき、二人はどのような気持ちだったのでしょうか。 ・ 高くよく飛ぶからうれしい。 ・ 楽しい。 ・ おもしろい。 ◎ 「はっ」と顔を見合わせた二人はどのようなことを考えたでしょうか。 ・ ぼくたちが上がったから汚してしまった。 ・ 悪いことをしてしまった。	・ 雨が降り続いていたことから、早く外で遊びたい気持ち

#### 役割演技の生かし方

演じた児童だけではなく、全児童に自分のこととして考えさせるために、まず、見ていた児童に、「二人はどんなことを考えたかな。」と投げかけ発言させた後、「どうだった。」と演じた児童に発言させました。

#### 役割演技

疑似体験的な表現活動を取り入れることによって、児童は登場人物になりきって考えることができました。

表現活動の方法には、発表したり書いたりすることのほかに、児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技（教材に書かれていないところを演じる）の工夫、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化（教材に書いているところを演じる）の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫などがあります。活動そのものを目的として行うのではなく、活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要です。

# 6

## 「特別の教科 道徳」の評価とは

### 【評価の意義】

児童生徒が自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むためのもの。

### 【評価の方向性】

- 数値による評価ではなく、**記述式**とすること。
- **個々の内容項目ごとではなく**、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、**児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うこと。
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか**（自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等）、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**（読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている等）といった点を重視すること。

指導要録には、一人一人の**児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子**について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、**特に顕著と認められる具体的な状況を記述する**。

- 【記入例】
- ・ 疑似体験をとおして、読み物教材の登場人物になりきって、みんなで使う場所の使い方について考えていた。
  - ・ 公園や学校などの公共の場を想起しながら、どんなことに気をつけながら使えばよいかを考え、友達と話し合っていた。
  - ・ 読み物教材を読んで、みんなで使う場所の使い方について、自分の経験と結び付けて考えられるようになった。

- **調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないように**すること。